



宮ヶ瀬の紅葉 (撮影 阿部会員)

令和3年 12月号 Vol. 212
(2021年)

発行：令和3年 12月 10日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《秋季観光客入込み調査》

日 時：11月7日(日) 9:00~16:00

場 所：市内拠点5箇所

参 加 者：各箇所 会員2名(計 10名)

広沢寺温泉(七沢観光協会駐車場)

10月初めに七沢温泉郷がアドマチック天国で放映されると聞き、入込み調査の前夜にテレビ放映されるのを見ました。あつぎ観ボラの大事なフィールドの見慣れた温泉旅館、里山風景、低山ハイキングコース、季節の郷土料理や川魚料理の店等のそれぞれの魅力が紹介されました。

さて、翌日は広沢寺温泉での入込み調査。テレビの威力は絶大でした。座る時間が無いほど多くの方が来訪されました。滑岩のクライミング、秋の装いが始まった鐘ヶ嶽や見城山の低山ハイキング、温泉入浴や里山散歩。遠方からテレビを見て七沢を訪れた方もおり、駐車場は早々に満車状態となり駐車待ちが夕方まで続き、駐車場係になってその調整・誘導におわれました。

川魚料理がいただけるマス釣り場には子連れ親子が多数押しかけ、帰りに子供達が「3匹釣ったよ」「お魚美味しかった」と話してくれ、街では味わえない自然の中の一日を楽しんでくれたようです。今が錦に染まる晩秋の美しさ、春になればあでやかなミツマタ。里山の楽しみは続きます。(山下潔 記)



七沢温泉(盛楽苑駐車場)

夜中に雨が降ったようで地面が濡れている曇り空でしたが、いつの間にか小春日和になり穏やかな一日でした。緊急事態宣言も明け、前日テレビ東京で「東京から最も近い温泉宿」として、七沢温泉が放映されたので人出を期待して調査を開始しました。早速「テレビを観ました」と言うご夫妻とお話をしたら、8月に東京から厚木に引っ越して来られたそうです。住みよい町厚木をもっと知って貰いたくて沢山パンフレットを差し上げました。

グループでハイキングに来た海老名の男子高校生や、美肌の湯を求めて東京からの若い

女性達、ツリークロスアドベンチャーに家族連れで来られた方、ズンドバーの人気は想像以上でした。七沢から森林公園の方へ行かれる人には山ビルのスプレーをお貸ししました。珍しく「観音寺は何処ですか」と2度も聞かれました。「日帰り温泉入浴が出来る旅館はどこですか」と何度も聞かれました。車も多く（404台）ベンツ等の外車が目立ち、横浜、川崎、品川や八王子と遠方から来た車も多く、驚いたのは沖縄ナンバーもあった事です。テレビを観た方が多く気軽にアンケートにも応じてもらえました。



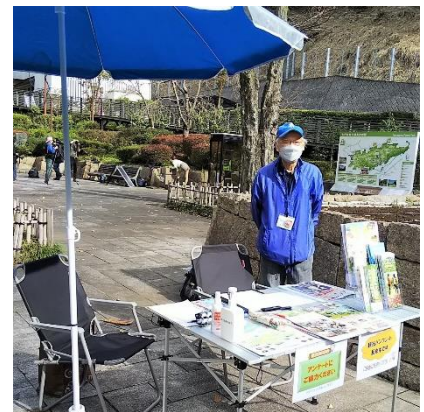
この地点は車で通過する観光客が多く、アンケート調査に苦労するのですが、この日は打って変わって歩行の観光客も多く、アンケートも気軽にお願いして簡単に取れました。前日の放映でこの人気なので次の週末などはもっと多いと予想されます。テレビの影響の大なるものを感じながらパンフレットが少なくなった忙しい一日でした。

(佐々木・寺田 記)

七沢森林公園（出会いの広場）

9月30日に緊急事態宣言が解除になって初めての入込み調査となりました。未明には雨音が響いていましたが、朝にはすっかりあがり、曇り空ながら時折日の光が差し込む中で調査を開始しました。

今回の調査では、① 緊急事態宣言解除後 ② 秋の行楽シーズン ③ 調査前日のテレビ放映(七沢温泉郷特集)という3つの集客アップ要素が重なったことで、前回より来園者は増えるであろうと予想はしていましたが、その期待を裏切ることなく、9時～16時の調査時間内の全区分 100名以上のカウントで、延べ 1,000 名を超える結果となりました。



出会いの広場には、朝9時早々からカメラを抱えた人が次から次へと集まり始め、10時前には20名ほどになっていました。来園理由を尋ねたところ、アマチュアのカメラマンの方々に、6名のモデルさん(ミス湘南?)の撮影会が行われるとのこと。公園内の施設や少し色づき始めた木々を背景に、それぞれお気に入りのモデルさんを熱心に撮影していました。

前日のテレビ放映を見て初めて来園されたという方は、主に近隣市町村からのファミリー層が多く、アスレチック広場を目当てに来られた小さなお子様連れや、わんちゃんと散歩を楽しむご夫婦などが目立ちました。周辺観光について、特に「パワースポット」の場所を尋ねてくる方が多かったので、テレビの影響力は絶大です。

ただ、いつもの観光シーズン中の休日であればバーベキュー(BBQ)を楽しむ家族連れやグループが多く見られますが、あいにく現在もコロナ禍でBBQ会場が閉鎖中で、宣言解除後とは言えここにもまだ影響が残っていることを改めて実感しました。アフターコロナには観光地の賑わいがまた戻ってくるとは思いますが、この七沢エリアを皮切りに、厚木市内あちこちの観光スポットにもリピーターとファンが増えることを期待せずにはられません。

(山田・重富 記)

飯山温泉（中飯山自治会館）

曇り勝ちの朝からのスタートでしたが、昼頃からは快晴の天気恵まれました。中飯山自治会館恒例の野菜販売のため地元の役員さんが朝早くから忙しく出入りしていました。毎週土日のみの9時から午前中の販売との事で、お客さんが目立ちました。飯山観音方面へのお客さんの出足はやや鈍いと感じましたが、10時頃から徐々に増えてきました。



やはり車のお客さんが多く、二輪車や歩行者はパラパラでしたが、10時半ごろ50人位の子供達がやってきました。聞くとところによると、地元荻野地区青少年育成会主催の「歩け歩け行事」参加の一行との事で、引率者の一人に私の知り合いがいたのにはびっくりしました。みなさん楽しそうに飯山観音に向かっていきました。

浜松から初めて来たというお母さんと娘さんは「ザル菊も見れると思ってきたのに、見れなくて残念だったけど飯山観音様にお参りできて良かった」と言っていました。川崎から来られた、毎年来ているという熟年ご夫婦は、飯山で日帰り温泉に入れる場所が少なくなった事を嘆いていました。

今回の調査時の人流はやはりコロナ感染防止緊急事態宣言解除の反響を受けて明らかに前回調査（9月）よりは大幅増加したように感じました。このまま感染が終息する事を願いたいと思います。

（山下武敏 記）

相模川三川合流地点（青少年広場）

19の都道府県に出されていたコロナの「緊急事態宣言」と「まん延防止」解除から1ヶ月が過ぎました。今回は解除されて初めての観光客入込み調査です。三川合流地点の駐車場は更に10月24日まで緊急事態宣言の影響で閉鎖されていた為に、解除後の人出がどうなるのか興味がありました。調査当日の11月7日の河川敷は終始落ち着いた人の流れで、例年の今頃よりは少々少ないと感じました。



天気は風があり雲が多いながらも、時折、陽も射し河原遊びにはのんびりできる良い日でした。調査スタートの9時には青少年広場にランドゴルフの人達が集まり始めました。10時には野球やテニスも始まりました。常連の湘南ベルマーレのトライアスロンのグループがいつものようにやって来て、自転車で宮ヶ瀬湖へ向かって12人が一斉に出発しました。11時頃には河川敷に6つのテントが張られ、バーベキューまでの時間をお喋りでくつろいでいる複数家族の集まりもありました。

12時前には、宮ヶ瀬湖から早々とトライアスロンの人達が戻って来ました。バスで往復したら、もっと時間が掛かっただろうと思いながら、金魚のように元気の良い彼らが自転車を車に積んで帰って行くのを見ていました。午後1時にはテントは11張りが増え、休日らしい河原はゆったりとくつろいでのどかな風景になりました。

私達調査チームにも面白い事がありました。もともと骨の1本外れた日除けのパラソルが風で倒れて、更に骨が2、3本外れてしまいました。どうにか見っともなく無いように

補修をして立てましたが、気がついて上を見るとパラソルは風に屈して既にパラソルとは言えない形で、空中で泳いでいました。それで畳んで袋に納めてしまいました。

午後2時頃には野球もテニスも別の新しいチームに入れ変わりました。調査終了の3時半頃にはテントを収納しているグループもありましたが、河原はまだまだ休日を楽しんでいる人達の穏やかな雰囲気にも包まれていました。(前澤 記)

<訪問ガイドに参加して：春日局大山詣の歴史旅>

行事区分：訪問ガイド研修（かながわガイド協議会）
日 時：11月17日（水） 10：00～12：30
場 所：綾瀬市
参 加 者：会員2名

綾瀬市史跡ガイドボランティアの会担当の訪問ガイド研修に参加してきました。海老名駅から相鉄バスに乗り、終点の綾瀬市役所に到着し、受付で我々厚木組2名は海老名3名、大磯2名と同じ5班（最後の班）に配属になり、綾瀬のガイド5名が付きコース約4.1Kmを歩きました。



春日局は本名ふく、明智光秀の重臣であった斎藤利三の娘です。長じて徳川家光の乳母となり、江戸城大奥の整備で幕藩政治の礎を作った女性です。春日局は生涯で4回大山詣をしたとされます。1回目は慶長19年（1614年）で、将軍職継承を巡り、弟国松を担ぐ動きに不安を感じ、竹千代（家光）の継承を祈願したものとされています。まず春日局が歩いたとされる春日道を歩きました。中原街道から別れ吉岡に向かう春日原に春日道があり案内板がありました。春日局はここ吉岡に化粧料で屋敷を建て宿泊地としたと伝わっています。近くの済運寺（さいうんじ）には春日局が愛用したと伝わる茶臼と茶釜（写真）がありました。



近くに目久尻川という清流がありました。相模原市相武台団地付近を水源とし綾瀬市を通過して寒川町で相模川に合流する1級河川です。水が澄み切っておりアオサギ、コイ、小魚もいました。川辺には斜面からの湧き水を使った「わさび田」もありました。

今回ガイド研修に参加し、なぜ春日局が大山詣をしたかの疑問が解決しました。(澤田 記)

<中依知の日蓮上人の足跡を辿る>

行事区分：会員研修（歴史探訪）
日 時：11月18日（木）9：30～12：00
場 所：山際～関口～中依知
参 加 者：会員6名

快晴に恵まれ、コロナ禍で延び延びになっていた会員研修が久しぶりに行われました。



コースは今年度春に予定されていた中依知「日蓮上人を辿る」です。厚木バスセンター発 9:15 のバスでスタート、中平バス停で下車、長福寺に向かいました。途中、山際漢学研究所跡に寄りました。長福寺の入口の大山道交差点には立派な野立ちの石造仏、不動明王を乗せた道標と庚申塔が際立って並んでいました。



蓮生寺 星下りの梅樹

長福寺では住職さんの説明を受け、本尊の延命地藏菩薩半跏像を拝む事ができました。その後山際神社、大信寺、日枝神社を経て蓮生寺へ向かいました。

蓮生寺は日蓮の霊跡「星下りの奇瑞」を伝える市内三カ寺の一つで、本寺は立派な佇まいで感動しました。また小幡勘兵衛一族のお墓が並んでおり、その輝ける歴史に触れる事ができました。ここで記念写真を撮り、蓮正寺バス停にむかいました。丁度正午でした。今回の会員研修は大変勉強になりました。合計歩行数は約 8000 歩でした。

(山下武敏 記)



会員投稿

《七沢観音寺で護摩焚き祈禱に参加しました》

寺田 敏

小春日和だったので七沢方面に紅葉狩りに車で出かけました。時期的にはもっと早い方が良かったのですが、体調不良や北九州の郷里に出かけたりで、何かと忙しく気持ちの上でゆとりがありませんでした。

最初の通過地点の森の里の銀杏並木は予想通り紅葉の盛りを過ぎていました。11月7日の観光客入込み調査で前日にテレビ東京の「アド街ック天国」を観た観光客の方から観音寺の場所を何度も聞かれた事や、観音寺近くの玉川館の別棟「草庵」付近の紅葉も綺麗だったと思い出し「観音寺に行ってみよう」と家内に言って車を走らせました。しかし、そこも時期が悪く紅葉はさほどではありませんでした。

観音寺の駐車場に車を停めて坂道を登って境内に入りました。観音寺には観ボラの企画ガイドで何度も来ています。通常とは様子が違い、本堂の前に修験者の装いの方が2人いて「得度を受ける前の在家の僧です」と自己紹介を受けました。何の法要か尋ねると、毎月19日に行われるご本尊の馬頭観音菩薩護摩供の法要とのこと。「どうぞ上がって下さい。」と言われ、檀家ではないので少し躊躇しましたが家内の実家が天台宗で、これも何かの縁と思い本堂に上がりました。床几に腰かけて待っていると、その方が粉末のお香を持って来て手に塗るように言われて両手に塗りました。身を清める為です。ほら貝が鳴り太鼓が打たれて護摩焚き祈禱が始まりました。事前に了解を取って写真を20枚位撮りました。読経が続き護摩札が次々と火にくべられます。



途中で住職が席を立ち外陣にいる4人の前に立ち、読経をしながら頭と両肩に手に持った数珠を供えました。30分位の祈祷が終わると驚いたことに内陣に招き入れられ、護摩の煙を頭や身体に含ませる様に勧められました。内陣から出る時にお供え物の大きなりんごを1人1人に手渡されました。帰り際にご住職に観ボラ会員である事を告げ、記事と写真を会報に掲載する旨、了解をいただきました。私はご住職の顔を覚えていましたが、ご住職は当然ながら私の顔は覚えていませんでした。

最近の活動

日時	場所	内容	参加者
11月13日	アミューあつぎ	定例会・勉強会	会員 16名
11月17日	綾瀬市	かながわガイド協議会 訪問ガイド研修	会員 2名
11月18日	中依知地区	会員研修 中依知歴史探訪	会員 6名
11月25日	南足柄大雄山	県西観ボラ合同研修・交流会	会員 2名
11月28日	飯山地区	会員研修 飯山観音・飯山白山森林公園	会員 6名
12月1日	上荻野地区	懇親推進 手づくりコンニャク体験	会員 8名

編集後記

巻頭の写真は宮ヶ瀬の紅葉です。寒暖の差が大きな宮ヶ瀬では厚木市内より1週間から2週間ほど早く紅葉が楽しめます。

先日の定例会の後「神社」についての勉強会がありました。その中で講師からガイドをする際のコツとして「ア・カ・シ・ヤ」が大事だというお話がありました。アー―相手を良く見て カー―語りかけるように シー―しゃべりすぎに注意し ヤー―止め時を考える という内容でした。新型コロナの感染状況が落ち着いてきて、ガイドが本格化した時はこのことを意識して、お客様に良く聞こえるように、元気にガイドをしましょう。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子